

News Letter

vol.08

2017. 12月号

毎月発行

今月のよっしー

読者の皆さま、今年も大変お世話になりました。講座が掲げる「地域での教育こそが鍵である」を確実に前進させた一年でした。これも皆様のご支援の賜物です。

米国家庭医療の権威John Saulz教授が昨年浅草の学会で述べた“Practice and education go together”（地域での診療実践と教育を同時に展開せよ）を意識しながら、今年誕生した50名のごちゃまぜ師と力を合わせて地域での人財育成をさらに来年は加速します。その中の一つが初期研修医向けの地域医療強化コース、通称「むちゃぶりコース」を新たに設置しました。乞うご期待！



吉村 学教授

連載企画

臨床実習病院・診療所紹介「宮崎県立日南病院」

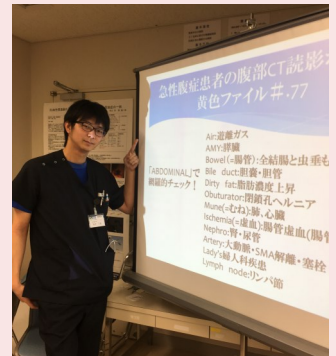
県立日南病院 初期研修医1年目 島津 久遵 先生

県立日南病院の初期研修医1年目の島津久遵です。当院は、県南地域の中核病院として、プライマリーケアや急性期から終末期まで様々な患者さんに関わります。1年目研修医4名、2年目研修医3名で切磋琢磨しながら日々多くのことを学んでおります。

宮崎大学からの学生も実習に参加しており、「The Resident as Teacher」を目標に活発なディスカッションを行い、



学生からの鋭い質問にドギマギしながら下からの突き上げを感じつつ、なんとか平静を保っている毎日です。



私にとって学生時代の地域実習は、手技や患者さんとの距離感など、一番「医療」を感じることの出来た機会だったので、当院に実習に来られる学生の皆さんにも、「医療」を身近に感じて欲しいなと思っております。

講座スタッフ紹介①



助教 桐ヶ谷 大淳

妻の実家のある宮崎県へ引っ越してきて6年弱、宮崎ライフを満喫していますが、宮崎弁はまだ習得できていません。日南市立中部病院で内科や在宅医療に従事していましたが、途中から当講座の地域医療教育にも関わるようになりました。今までとは違うカタチで地域医療に貢献しようと思いたち、今春からは講座の仕事をメインとして働いています。ただ臨床・教育・研究をバランスよくやっていこうと企んでいたものの、慣れないことばかりの上、課題も山積みで暗中模索しています。

亀の歩みではありますが少しずつ前に進み、宮崎県の地域医療・総合診療を充実していくための、しっかりした鎖のひとつになりたいと思います。

オレゴン健康科学大学の家庭医療学講座を視察して その3

宮崎大学 医学部 地域医療・総合診療医学講座 講師 松田 俊太郎

9月23日から30日までのオレゴン研修では、家庭医療について深く考えさせられました。視察の最後に、前主任教授であるJohn Saultz先生より講義をうけましたので、自分の意見も交えてお伝えしたいと思います。

“家庭医療”とは、地域で暮らす人々に基本的な医療を、いかに効果的に届けることができるか？を考えていく学問です。難しい話になりますが、プライマリケア（初期治療）をすることが家庭医療の仕事ではなくて（プライマリケアはどの分野の専門医においても、それぞれのプライマリケアがあるのです）、なんでもかんでも医療を行うことではなくて、内科的な疾患を幅広くみるのではなくて、“家庭医療”という一つの学問なのです。そのため、家庭医療のゴールとして、近接性（地理的、経済的、時間的、精神的）、包括性（予防、治療リハビリまで、子どもから老人まで）、協調性（多職種連携、地域資源の活用）、継続性（ゆりかごから墓場まで、病気の時も健康な時も）、責任性（十分な説明、生涯教育）が重要になってくるのです。

わかりやすいイメージとしては、これまでの家庭医療医が実践してきたものは、日本では昔の町医者実践していた医療であろうと思います。なんでもみて（患者もみて、地域の問題もみて、時には町の将来を考えて）、外来から入院までみる、といった内容です。しかし、現在ではこのような医療を実践していくことは、医療の目まぐるしい発展からも、日本でもアメリカでもいろんな理由で継続は難しくなっていると思います。

おそらく、今後の“家庭医療”の大きな問題となってくることは、精神的ケアの比重が大きくなっていく上に、これまでは患者中心の医療が大事といわれてきましたが、これからは個人の健康と、その地域全体の健康問題を考えて医療を考えていく必要があるとおっしゃっていました。単純に医療だけを実践するだけでなく、地域性や経済面まで含めた対応、つまりは公衆衛生の考え方で理解していくことが、“家庭医療”には重要なのだらうと実感した講義内容でした。

これからの日本の医療の方向性を考えていくことが、家庭医療医には求められていると思いました。



▲John Saultz先生より講義をうける

タイ・Jack先生の研修が修了しました。

11月6日（月）から30日（木）まで、タイ王国・プリンス・オブ・ソンクラ大学附属病院Family Medicine専攻医3年目のDr.Phacharaphon Maneethanawat（通称：Jack先生）が、宮崎県で研修をされました。串間市民病院を中心に、田野、高千穂町、諸塚村、日南市と、県内各地で研修してもらいました。

11月29日（水）には講座で送別会を開催し、串間、高千穂、諸塚の先生方やF M I G宮崎の学生さんたちが参加してくれました。皆さんから一言ずつコメントをJack先生へ、そして先生からお言葉をいただきました。

学生さんからはソンクラ大学での実習のことや交流について質問が出され、色々と情報交換をしました。先生にとって印象に残ったことは宮崎のどの地域でも本当にみなさんがおもてなしの心で接してくれたこと、一生懸命に説明してくれたことだったようです。修了証にみんなで署名して先生にお渡ししました。またお会いできる日を楽しみにしています！



講座のイベント情報

- 臨床研究に関する講演会 1/19(金) 17:30～
講師：京都大学 医療疫学分野 教授 福原 俊一 先生
- レジデントデイ
1/26(金) 18:00～ 場所：日南・油津Yotten
- 第2回総合診療フォーラム
2/16(金) 18:00～ 場所：宮崎市内
※詳細はホームページやFacebookに順次アップします。

★総合診療専門医プログラム 来年度専攻医募集中★

宮崎大学 医学部 地域医療・総合診療医学講座

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200 TEL:0985-85-9809 FAX:0985-85-9805

E-Mail : chiikiiryo@med.miyazaki-u.ac.jp URL <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/community-medicine/>

